（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所　つくべた			
○保護者評価実施期間	令和6年　12月　9日		～	令和6年　12月　20日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	10名	（回答者数）	8名
○従業者評価実施期間	令和7年　1月　6日		～	令和7年　1月　15日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	3名	（回答者数）	3名
○訪問先施設評価実施期間	令和6年　12月　9日		～	令和6年　12月　27日
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	6施設　8名の担任先生	（回答数）	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年　2月　13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者・訪問先の評価からも、本児に寄り添った支援目標・計画が立てられており、満足度の高い訪問が出来ていると思われる。	専門性の高いスタッフが訪問支援員として伺うようにしています。十分な知識・経験に加え、訪問先の状況も踏まえたご提案が出来るように今後とも努力してまいります。	今後も子どもさんを中心に寄り添った支援が提供していけるように、人材確保も含め努めていきます。
2	多機能型であるため、対象児は原則当事業所での児童発達支援を利用しているため、児童発達支援事業と連携した計画・支援を検討できる。	実際の訪問支援員が、児童発達支援事業所での様子も把握している事で、よりスムーズな情報共有・計画の立案が出来る事が強みであると考えます。また訪問支援員とのお子さんとの信頼関係もあるため、訪問先でもスムーズな情報共有や支援の提案が可能になるように努めています。	現状できている点は継続して努力していくとともに、児童発達事業所を利用していない子どもさんの受け入れについても検討を進め、対応出来るようにしていきたいと思います。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	フォーマルアセスメントによる評価が不十分。	行動観察や課題分析の視点や、各関連機関からの情報をもとに、計画をたて、客観的な指標をもって目標達成かどうかを判断出来るように努めています。しかし支援が入った事での変化量や成長した部分を具体的に示す指標が不十分だと思われます。	今後も客観的な指標を持って支援を行っていくとともに、客観的に変化量が示せる具体的な評価様式の検討を行うっていきます。
2	訪問支援員が１名体制の為、希望があった場合、迅速な対応が困難。	限られた人員のため、希望があった日時の迅速な対応が困難な事があります。また訪問支援員の急な休みなどに対応できない為、訪問施設側に変更をお願いする必要が出て来ることがあります。	保護者の要望と訪問先の先生との共通理解の下、必要性に応じた、訪問時期・頻度の調整を検討していきます。定期的に継続の有無も含め検討します。 体制の強化を目指して、今後の人材育成・人材確保に努めていきます。
3			